

# Hachioji MAIL NEWS



輸送サービス労組八王子地本



2025.09.12

No.033



## ワンマン運転の拡大が進む一方、 車掌の役割が再認識される事象、続々！

9月8日、西武池袋線は落雷の影響で長時間にわたり運転を見合わせましたが、詳細が西武鉄道ホームページに掲載されています。原因は「落雷により架線の支持装置が破損したため」とあり、状況に「上り列車の車掌が、落雷による下り線路の架線の異常に気づき、駅係員が架線の点検を行った結果、架線の支持装置が破損していることが判明」と記載され、破損の状況などの写真も添付されています。

JR東日本でも5月22日夜、山手線で複数の電車でパンタグラフが曲がる異常が見つかり、23日は全線で始発から運転を見合わせる事象が発生しました。この事象についてもパンタグラフ付近から火花が出ているのを外回り列車の車掌が気づいたのが、運転見合わせのきっかけとなりました。

ワンマン運転では駅発車後にホームの状況が確認できませんが、列車に接近する旅客やホーム下に転落する旅客を車掌が発見し救護をするなど、車掌がいる事によって大きな事故を未然に防げた事象も起きています。

## 「究極の安全」の実現には最新技術の 活用に加え、人間の力が必要だ！

9月9日、JR東日本はモビリティ事業として初めてとなるモビリティ中長期成長戦略「PRIDE & INTEGRITY」を策定しました。その中で省力化・省人化として首都圏各線区でのワンマン運転推進だけでなく、山手線で導入の準備が進められているドライバレス運転の線区を順次拡大していくと記載されています。

AI 技術が急成長し活用が拡大していく一方、完全なシステムではなく得意不得意の分野があるとも指摘されています。少子化の時代で担い手が減っていくのは確実で、人手不足の対策を先取りする経営姿勢は理解しますが、安全を創り出すための最後の砦として人間の力は必要不可欠です。

「究極の安全」の実現と快適な輸送サービス提供の実現に向け  
労働組合としてのチェック機能を果たしていきましょう！